

横浜市立 中村特別支援学校 小中高部 令和 7 - 9 年度版 中期学校経営方針 ( 令和 8 年度修正 )

学校教育目標	○ともに学び、ともに生きる力を育み、一人ひとりが共生社会の中で自分らしく生きる力を高めます ・自分の強みを生かし、主体的に学ぶことで、選択・決定する力を育む(知) ・自分や他人を思いやり、自他を大切にすることを育む(徳) ・自分の心と身体に向き合いながら、安心安全に生活する力を育む(体) ・自立や社会参加に向けて、コミュニケーションの力を育む(公開)					

学校概要	創立 45 周年	学校長 井戸 大輔	副校長 小野 美枝	2 学期制		
	幼児・児童・生徒数: 75 人	幼稚部: 人	小学部: 33 人	中学部: 14 人	高等部本科: 28 人	専攻科: 人

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力
○なかむら力 ・とりくむ力 ・あらわす力 ・つながる力

育成を目指す資質・能力を踏まえた 「12年間で育てる子ども像」と具体的取組
○自己と周囲を理解し、人と社会と協力協働することから、自分らしい生き方(生活)を求め続ける力を育てます。 ①教職員がチームとして、家庭と連携しながら、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、それに基づいた日々の教育実践および評価修正を丁寧に行う。 ②キャリア教育の視点を持った教育実践を推進し、連続性・系統性のある指導を実践する。 ③中村小学校や近隣校、関係機関や地域社会との交流及び共同学習の場や質の充実を図る。

中期取組目標	1 12年間の学習の一貫性を図り、ICT等を活用することで、主体的な学習のために授業改善を行う。 2 学校教育全体を通じて、児童生徒の自己有用感や自己肯定感を育む。 3 児童生徒が心身ともに健康で安全に活動できるよう、自立活動・食育・保健教育の充実を図る。 4 地域との連携を深め、学校運営協議会や地域学校協働本部と協力しながら、地域と学校の協働を図る。 5 自立や社会参加に向けた力を育むため、教職員の専門性を高め、家庭と連携しながら連続性・系統性のある指導を実践する。 6 児童生徒の様子や変化や周囲のかかわりについて、チームで振り返る機会を定期的に設け、人権意識の向上を図る
--------	---

重点取組分野	具体的取組
<b>知</b> ①主体的な学び ②12年間の学習の一貫性	①児童生徒個々の実態に即したうえで、教科・領域等の授業において一人ひとりの経験や学びが連続する学習活動を展開するため、教育課程編成・年間指導計画について改善検討を続ける。 ②個別の教育支援計画・個別の指導計画をもとに、継続性のある学びを行う。
<b>徳</b> ①交流 ②人権意識	①中村小学校および副学籍交流校、近隣学校およびYSCCなどとの交流・共同学習を計画的に推進し、互いの良さを認め合い、尊重し合う関係づくりを進める。交流機会の拡充(教科学習や行事など)、学習目標を共有した共同学習の深化を図り、取組の検証と改善を通して、交流および共同学習の質を一層高める。 ②人権を意識した教育活動を通して、児童生徒が「できた」「認められた」と感じられるように、児童生徒一人ひとりの自己肯定感を育む。
<b>体</b> ①自立活動の充実 ②食育 ③保健	①児童生徒の実態や特性を的確に把握するための視点を知り、児童生徒の実態や特性に合わせた具体的な指導内容、支援の手立てについて検討、実践していただくことで、それぞれの専門性を高める。 ②食に対する学習や給食指導を通して、食は生活を豊かにし、健やかに過ごすために大切であることを経験できるように取り組む。 ③健康診断や保健に関する活動を通して「自分の体」や「健康な生活」について興味関心を持てるようにする。季節や児童生徒の実態に合わせて、興味関心を高める取り組みを検討していく。
<b>公開</b> ①地域連携 ②医療連携	①地域社会とつながるよう、地域行事等へ参加したり、学校行事にかかわるボランティアや交流活動への協力等を積極的に呼びかけたりする。学校運営協議会や自立支援協議会と連携し、そこでの意見や話題をより良い学校づくりに生かす。 ②教員、養護教諭、学校看護師、児童生徒の支援者および関係機関、主治医・臨床指導医、保護者等と緊密に連携し、校内マニュアルと専門的知見に基づいて、安全かつ確実な医療的ケアの実施に取り組む。

<b>キャリア教育</b> ・多様化する社会の理解を深め、主体的に卒業後に必要なことを考えられるように、保護者や教職員の研修を充実させる。 ・キャリア教育の観点を共有し、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成と評価に生かすとともに、連続性・系統性のある指導に努める。
--

<b>働き方改革</b> 教材研究の時間を確保し、児童生徒の参加につながる魅力ある授業を提供できるように、業務の精選や時間の有効活用に関する検討を行い、互いに高め合える職場づくりに努める。
---

<b>防災</b> 大地震想定訓練の際に、ライフライン使用不可、津波警報あり屋上避難、引き取り訓練、避難訓練中の非常食体験といった各回の設定の下、防災本部からの指示で災害時のチームごとに動きの確認をする。 消防署職員と連携による防災職員研修、防災時に地域の避難所になった場合を想定した職員研修などの実施を検討する。
---

<b>いじめへの対応</b> (大人の言動や環境整備から子どもたちが苦痛を感じないように)
--

情報交換や支援策の検討、経過の共有を組織的に行い、児童生徒の小さな変化を見逃さず、安心・安全な学校生活の実現に努める。また、教職員が指導や支援を定期的に振り返り、好事例や課題を共有して、指導・支援の改善につなげる。さらに、これらの取組を保護者や地域へ継続的に発信し、連携しながら子どもを支える体制づくりを推進する。
---

担当 人権教育推進委員
-------------

担当
----

担当
----

担当
----